

順位表 4/10現在
基本 9 試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

注：*印は消化試合が数字分少ない

1*1	大宮	20p	+10	14	4	A●
2	沼津	19p	+10	18	8	
3	岐阜	18p	+8	17	9	---
4	今治	17p	+4	12	8	A○
5	FC大阪	16p	+8	12	4	A△
6	相模原	13p	+1	8	7	A△
7	鳥取	13p	0	9	9	
1*8	琉球	12p	+1	11	10	
9	長野	11p	0	13	13	
10	金沢	11p	-2	17	19	
11	富山	11p	-2	6	8	H△
1*12	北九州	9p	0	5	5	
13	YS横浜	9p	-3	7	10	
1*14	松本	9p	-5	8	13	A○
1*15	福島	8p	-4	7	11	H○
1*16	岩手	8p	-6	8	14	H○
17	奈良	7p	-4	10	14	
1*18	八戸	6p	-5	5	10	
1*19	讃岐	5p	-4	8	12	H○
20	宮崎	5p	-7	8	15	

次回HomeGame

第13節 vs.ギラヴァンツ北九州

5/6(月.祝) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯

煮込み珍道中
串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です

<定休日:日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10 分

★
アミカ

ドミー
イン

JR
岐阜駅

通算対戦成績	全 6 試合 (J3: 6 試合) 岐阜 2 勝 / 宮崎 3 勝 / 1 分け Jリーグ岐阜ホーム戦: 1 勝 1 分 1 敗			
直近の対戦結果	2023/09/09 岐阜 0-0 宮崎 J3-26 節 @ 長良川			
ここ 3 試合の 公式戦の 結果	岐阜	2024/04/10 J3-9 節 @ 長良川 岐阜 1-1 富山 2024/04/06 J3-8 節 @ ギオンズ 相模原 1-1 岐阜 2024/03/31 J3-7 節 @ サンアル 松本 1-2 岐阜	宮崎	2024/04/10 J3-9 節 @ いちご 宮崎 1-2 今治 2024/04/06 J3-8 節 @ いちご 宮崎 2-1 奈良 2024/03/31 J3-7 節 @ いわスタ 岩手 1-0 宮崎

● J3 リーグ 2024 年シーズン、第 8 節時点で暫定 2 位と好調を維持している FC 岐阜。4/10 (水) 第 9 節・ホーム富山戦は、前後半を通して一進一退の攻防が続くが、お互いにゴールが生まれず試合展開に。しかし、ついに後半 A T 47 分に富山が先制点を挙げ、敗戦かと思われた直後に PK を獲得した #17 田口裕也が、後半 51 分に自ら同点として 1-1 で試合終了。開幕ホーム連勝記録は 3 でストップしたが、7 試合連続負けなしはクラブ記録タイ。劇的な幕切れで勝点 1 を手にすることができた。

この試合の結果、FC 岐阜の順位は暫定 2 位から暫定 3 位へと低下。やはり、J3 優勝争いの中にある状況では、勝利し続けないと順位が下がってしまう。ただし、(1 試合未消化にも関わらず) 首位・大宮との勝点差は 2、2 位・沼津とは 1。まだ 1 試合で追い越せる位置にいる。そして今節は、その大宮と沼津が直接対決する。一方で、暫定 6 位 (=J2 プレーオフ出場圏内)・相模原との勝点差は 5。この差を縮められてしまうのは望ましくない。直近 2 試合連続引分けと勝利から離れている岐阜、その意味でも、今節は絶対に勝利することが求められている。

そして今節は第 10 節、シーズン全 38 節の約 4 分の 1 を消化したことになる。現在の岐阜は 5 勝 3 分 1 敗・17 得点 9 失点。チーム総得点が 17 でリーグ 2 位タイと、攻撃陣の好調さが現在の順位を支えているだろう。一方で、リーグ 12 位タイの総失点 9、無失点が 2 試合というのは懸念材料だ。また、ここ数試合は相手に研究・対策を講じられるようになってきており、この対抗策を打ち破る必要がある。来週は 4/17 (水) にルヴァン杯 2 回戦、そして週末には全国で天皇杯県代表予選が開催されるため、この試合後は 4/28 (日) 第 11 節・アウェイ金沢戦まで 2 週間公式戦がない FC 岐阜。この貴重な期間を有効に活用して、選手間の連携や戦術の深化など、チーム力を向上してくれると信じている。

さて、3 連戦の最後となる今節の対戦相手は、テゲバジャーロ宮崎だ。昨季は 19 位と低迷したが、年末にクラブ及びスタジアム指定管理会社の親会社に変更・統一化。役員人事も刷新され、C 大阪や横浜 F で育成を担当していた大熊裕司氏が監督兼強化部長に就任。育成型クラブを目指す方針が示されてスタッフと選手も大幅に刷新されている。今季は現在 9 試合で 1 勝 2 分 6 敗・8 得点 15 失点で 20 位。こういう下位の対戦相手にも油断することなく、勝ちきる試合を着実に遂行することが、今の岐阜には必要だ。

ただし、宮崎との通算対戦成績は、岐阜の 2 勝 1 分 3 敗・12 得点 10 失点と負け越している。ホーム戦では 1 勝 1 分 1 敗・4 得点 3 失点。昨季の 4/30 (日) 第 7 節・アウェイ戦では、前半だけで 2 失点。後半 A T に #48 田口裕也が意地の 1 点を返すが、1-2 で敗戦。9/9 (土) 第 26 節・ホーム戦も、何度も決定機を迎えるが決め切れずに 0-0。今節はリベンジを果たさなくてはならない。

宮崎で最も警戒すべき選手には、現在 4 得点の #18 吉澤柊を挙げる。前所属のいわきで鍛えたフィジカルは驚異だ。また、3 得点の長身 F W #11 橋本啓吾にも注意が必要だ。そして、#41 上野瑤介は岐阜の上野監督の次子。ベンチ入りは不透明だが“親子鷹”対決が見られるかもしれない。一方の岐阜では、宮崎に在籍していた #11 藤岡浩介 (2017 ~ 2021 年) が“恩返し弾”を決めてくれる姿を期待したいし、#18 小川真輝 (2022 ~ 2023 年在籍) には、左サイドを封鎖する活躍を見せて欲しい。また、宮崎の #34 遠藤光は甲府から、#20 阿野真拓と #38 楠大樹は東京 V からのレンタル組だ。岐阜の #29 野澤陸 (甲府から)、#16 西谷亮 (東京 V から) との同門レンタル選手対決にも注目したい。

3 連戦の 3 戦目、選手たちには疲労が溜まっているだろう。そんな状況でも、僕らの後押しで勝利を掴み取ろう。拍手や声援をスタジアムに響かせ、タオマフやゲーフラなどでスタジアムを緑に染めよう。今節こそ、試合終了後には選手たちと勝利の歓喜を分かち合い、“HYPER CHANT” を、このホーム・長良川に響かせよう。(ささたく)

投稿募集 !! gidaidohri@gmail.com

【第9節】岐阜 1-1 富山

●「アキラメナイ」気持ちって大事なんだなあと。

富山・松本孝平のヘディングシュートで先制を許したのが92分。その瞬間席を立った人もいただろう。自分もさすがにまあこんな日もあるさと思うしかなかった。時計を見ると、アディショナルタイムの目安5分を回ってもうワンプレーぐらいで終わりの状況。そこでボックス内に侵入した田口裕也が倒されてPKを獲得、自らが決めたところでタイムアップの笛。本当にラストプレーでもぎ取った勝ち点1。無→有。0→1。この差は大きい。

とはいえ試合内容は低調気味で。連戦続きで動きの重い選手もチラホラ。しっかりと岐阜に対する対策も取られていたな。これから対戦する相手も、しっかりと対策を立てて来ることだろう。と同時に疲労が蓄積した選手も増えてくることだろう。

選手・スタッフ含めたチーム全体の力が試されてくる時。まだ順位のこと云々を論ずる時期ではない。目の前の一戦一戦を大事に戦っていくだけ。(岐阜の誇り)

●今のところ、あまり調子が上がっていないと思われる富山。昨季3位で継続性のあるチームを、今のうちに叩いておきたい……けれど、やっぱり富山は強かった。この試合のMFは右に#8荒木大吾、左に#15上野輝人の組み合わせ。他にもスタメン変更が色々あって、3連戦でもあるので上野監督が試行錯誤している印象。だけど、それは選手間のポジション争いを活性化させると思うので、現時点では悪いことではないと僕は思う。さて、この試合でも他チームと同様、富山は“岐阜対策”を着実に実行してきた。その対抗策を打ち破ろうとする岐阜。徐々に押し込む時間帯が増えてきたけど、決めきれずに前半終了。後半も序盤は岐阜のペースだったけれど、後半14分に#11松本孝平を投入して#9碓井聖生とのツインタワーにすると、富山が攻勢に。後半25分には岐阜ゴール前の混戦でボールを押し込まれたけれど、#9碓井のファウルが採って貰えて助かった(苦笑)。何度か岐阜も反撃をするけどゴールを奪えずにいると、後半47分に右サイドを突破されて失点……(溜息)。なんか既視感があるなあとと思ったら、この前の相模原戦の失点シーンも右サイドを突破されてた。この点でも“岐阜対策”が進んでるのかもしれない。そして「後半ATに失点し敗戦」……というのが通常パターンだけど、今季の岐阜は、良い意味で諦めが悪くて粘り強い。一気に反撃に出て、#17田口裕也がPA内に突入したところを倒されてPK獲得。これを#17田口が自身の右足一閃で叩き込んで同点に。そして次のキックオフを待つことなく、試合終了の笛。最後の最後で激しいドラマが待っていた。勝ちたい試合だったけれど、こういう難しい試合を引き分けに持ち込めたことをポジティブに捉えたいと僕は思う。それと、平日ナイターにも関わらず入場者数が3,278人と素晴らしい数字に。チームの好調も後押しにして、スタジアムの雰囲気が少しずつ良い方向に変わってきている気がします。(ささたく)

●先制された瞬間、席を立ったヒトは少なくなかった。正直、自分も立ちあがるのか?という思いがよぎったけど、なぜだか、「いや、この後、どうするかを見ていこう。」と腰の位置はそのままにした。それが大正解。自ら獲得したPKとはいえ、落ち着いて決め切ったユーヤはスゴイね。その後の煽りにもシビれたよ。

とはいえ、前節に続いての連続のドロウ。試合内容も、なかなか厳しい展開が続いてる。ホーム・長良川なのに勝てなかった。だから、意気揚々に引き上げるコトは出来なかったけど、ウンウン、と頷きながらは帰れたよ。アノ展開でも勝ち点を手に入れるコトが出来たんだからね。やっぱり、カイケンが効いてたなあ。獅子奮迅というか、阿修羅の如くというか。あわや、失点……というシュートをゴールマウスの中から弾き出したのも彼だったような?違うかな?ファールでゴール

が認められなかったコトも含め、富山とサポさん達にはキツツイ試合になったのは間違いない。心中、察して余りある。ただね。PKの前の場面。富山の選手はなんで、ウチのゴールに向かったのかな?てつきり、コーナーで時間稼ぎするんだとばかり。確かに、人数的には2対2くらいの状況ではあったけど。残り1分くらいだからね。あのままキープしてれば富山の勝利。ウチの選手には「1点差でも勝ち勝ち。」と考えて欲しいな。リードしてるって状況をシビアに考えてもらいたいね。

そんな、今季のリーグ戦最後の水曜開催(金曜はあるけどね)。平日夜に三千人を超えたのも素晴らしい。富山サポの声量も試合前から際立ってたよ。一進一退の攻防の中で、双方とも決め切るコトが出来ないまま突入したATで共に一点ずつ入れる。『サッカーあるある』だとは思いますが、実にスリリングな展開でした。

あ、それから、石田のクロスはたったの一回でも脅威になるし、あいちゃんの体幹の強さったら、もうね……と伝えたい。脚を掛けられても倒れない。なんなら、相手にカラダを預けて体勢を立て直すなんてテクも見せてくれた。なんか、今季は目が離せない選手ばかりだな。嬉しい悲鳴だ(苦笑)。

(ぐん)

●バスケ・マンガの金字塔と言っていい作品に出てくる名セリフ「あきらめたらそこで試合終了ですよ」をリアルで感じてしまった、そんな試合。

土曜・水曜・日曜。コンディション作りが難しい水曜の試合で、ボランチに西谷と庄司、左にアキト、右に荒木、トップにコースケとあいちゃんという布陣にした。これまでも試合途中にこのメンバーになったことはあるだろう。そしてそれは、これまでは機能していた。でも、同じ布陣がスタメンで機能するとは限らない。この日は疲労蓄積のせいか右2列目の荒木のところでロストするシーンが目立った。そこを制圧できていないので、必然的に石田が上げられるチャンスも減っていく。『石田の前』問題はいまだに解決できず、か。とはいえ、富山も連戦なのは同じなので仕掛けまでは行けてもフィニッシュの精度が落ちて決定機までにはいかず、膠着戦へ。

これはスコアレスドロウが順当だと思った後半ATに富山・松本にゴールを許す。なんでも岐阜相手だと3試合で4得点(2022年の讃岐戦で岐阜は2試合で3失点してるけど、得点者はすべて彼)だとか。天敵かよ(苦笑)。かつての岐阜なら、元・岐阜GK桐畑が指摘したように「先制されたら選手が下を向いてしまい」そのまま終わりだっただろう。

しかし、今季の岐阜には推進力がある。ユーヤが持ち込んだところを倒されてPKに。ペナエリアに入らなければPKはもらえないのだから、とにかく相手ゴールに近づく!という強い意志がなければPKにはならない。本人が冷静に蹴り込んで同点、ここで試合終了になった。

富山の左伴社長がSNSで「岐阜の応援の『熱』はすごかった、あの応援があったから(富山は)追いつかれたのかも」という内容の発信をしていた。もし、岐阜の選手が「先制されたら下を向いてしまう」状態のままだったら、この『熱』を維持するのはむずかしいだろう。

公式入場者数、3,278人。これは3/20(祝日)に行われた『Jで初の北陸ダービー』富山vs金沢(3,007人)をうまわる(3/20は冷たい雨だったというハードラックはあるが)。Fan(ファン)にFun(喜び)をもたらす。ゴールや勝ち点として可視化されるものばかりではない(今回は可視化されたけどね)。そして、それはチームやクラブから「与えてもらう」ばかりではなく、観客もそれを「作り出す」側になれる。実際、この試合ではそうだった。自信をもっていい。誇りにしていい。(吉田铸造)